

ARAI NEWS

Actual Story From Inside.



明けましてオメデトウございます。エツ
?なにを煮つけているのか?今回は
86年1月号なんですよ。だから思いつき
りHAPPY NEW YEAR気分です。書かせ
ていただきます。

新年というのは、何事も新たな気
持ちで迎えるのが大切です。ほら、
よく言うでしょ。一年の計は元旦にあ
り、とかね。というわけで今回は皆さ
んといっしょに、ヘルメットについて、も
う一度原点に戻って考えてみたいと
思います。

まずは、次の質問に答えてみて下さ
い。

なぜ、あなたはヘルメットをかぶるの
ですか?次の中から適当と思われる
ものに○をつけてみて下さい。

①みんながかぶっているから。

②道交法で決められているから。

③自分のためになるから。

ハイツ。①と答えた人は自分の
のポリシーが不足しています。

②の人は、小学校の時から
きまりを守ってきたまじめ
な人なんでしょう。そのき
まりに対して「なぜ?」
と疑問を持つことが必
要です。正解は、ズバリ③なんです。

別にヘルメットをかぶったからといって、
絶対に安全だと言っているのではありません。
絶対安全だと言っているのではありません。
絶対安全だと言っているのではありません。
絶対安全だと言っているのではありません。

せん。ただ方が一のとときにあなたを守る
ためのものだといいたいです。ヘルメット
の原点はそこにあるのです。そこで今回
はヘルメット選びのポイントについて書かせ
ていただきます。

まず、表面がなめらかな形状をしてい

ることが大切です。なぜかという点、極
端な突起形状は、コケてヘルメットが路面
にこすれるときに引つかかかってしまい首に
重大な損傷を与える可能性があるから
です。とはいっても表面がたとえなめらか
であっても、シールドや複雑なメカニズム
を組み込ませるために、帽体を内側に飛
び出させたりすることもやはり危ないこ
とです。帽体の内側が頭の表面に沿うよ
うな形状をしていなければ、衝撃を受
けた際、スチロールがつぶれ、帽体の内側
がどのように頭に当たるか考えてみて下
さい。

ヘルメットは人命を救うためにあるわ
けですから、表面だけでなく内側の形状
にも気をつけて下さい。安全性に関する
規格も各国で定められています。その中
でも、世界で一番きびしいとされているの
がスネル規格ということは一存知の方も
多いでしょう。だからといってスネルヘル
メットは耳から上半分だけ、というこ
とは、軽いヘルメットを作ろうと思えば、
このテスト範囲より下は帽体を薄くし
て、その分、重量を軽くすることもで
きるのです。ところがこれがまずいこと
で、なぜなら実際にコケたときにうつ
場所は、側頭部か後頭部の下側を打つ
例が大半を占めています。これはアライ
がもつ実際の転倒例の膨大なデータが
証明しています。スネル規格だからとい
って、安心してはいけません。実際に自分
の手にとってみて、下の方までしっかりと

出てくるかどうか、ヘリを両横から強く
押してみる。その際、実重量の少ない
ものが一つの目安となります。これは外
国のレーサーがよくやるヘルメット選び
の大切なポイントです。

さて、ケブラーやファイバークラス製帽
体の製造方法は日本ではエアバック方
式と呼ばれる成法が主流を占めていま
す。この方法だと樹脂に含まれる素材の
含有量が多くなり、外国製FRP帽体の
主流になっているハンドメイド方式で成形
したものよりも、同じ厚みですと高く
強度を出すことができるのです。ただし、
このエアバック方式にも欠点がありま
す。それは、全体の厚みを一定に保つのが
とても難しいことです。そこでアライでは
抜き取りではなく、帽体の全域にわたる
厚み検査を二重に行なっています。まず
成形部門ですべての帽体ひとつひとつを
チェック。ここで合格したものが初めて成
形部門の手を離れます。そして、検査部
門でさらにもう一度チェックされるので
万が一のためにかぶるヘルメットに万が一の
製造ミスは許されません。これはアライのヘ
ルメット作りポリシーの原点です。

だから、アライはどんな一流のレーサー
だろうが、スペシャルメイクしたりしま
せん。皆様にお届けするヘルメットが一
番安心できる品質管理のもとで作られ
ているからです。だから通常
のラインで流している、その
ままのヘルメットをかぶってい
ただいでいるのです。アライに
とって、皆様ひとりひとりが
一流レーサーなのです。



(NAO)